

## 研究報告

## 基礎看護学実習 I における看護学生の学びと気づき

—実習記録の分析から—

道廣陸子<sup>1)</sup> 藤田佳子<sup>1)</sup> 滝本和子<sup>1)</sup> 倉鋪桂子<sup>1)</sup> 佐藤美幸<sup>1)</sup> 杉原トヨ子<sup>1)</sup>網木政江<sup>1)</sup> 松下智美<sup>1)</sup> 原 哲也<sup>1)</sup><sup>1)</sup> 宇部フロンティア大学人間健康学部看護学科

キーワード：基礎看護学実習 I，看護学生、学び、気づき

## I. はじめに

看護学実習とは、学生が既習の知識・技術を基に、対象と相互関係を成立させ、看護目標の達成を目指しながら、そこに生じた看護現象を教材として看護実践に必要な基礎的能力を修得するという学習目標の達成を目指す授業である<sup>1)</sup>。初回に行う基礎看護学実習 1 は、学生にとって未知の世界であり、その中で、学生の受け持ちとなる対象者に対して倫理的配慮を行いながら、学生が看護専門職としての態度を修得できるよう指導していかねばならない。

基礎看護学実習の学びについては多くの報告があり<sup>2-4)</sup>、学生の学びの根底にあるのは人権の尊重であるとしたものや人間理解および人間関係形成について等の学びがあった。これら実習の学びの多くは質的な分析を行っているが、数量的な研究報告もあった。実習の学びは、自己の在り様についての学びと職の在り様についての学びからなっていた<sup>5)</sup>。

本学における基礎看護学実習 1 では、医療施設に入院している対象者の意思や権利を尊重した関わりを通して、対象理解を深めるとともに、対象者の健康上のニーズにあった日常生活援助の方法を見学や実施を通して学ぶことを目的としている。その目的を達成するため、表 1 のとおり学習目標・行動目標に沿ってその内容が達成できるような体制作りを行っている。特に大学側と臨床側との打ち合わせにおいては、臨床指導者と教員の役割について相互理解が得られるように配慮している。臨床指導者の役割は「患者の看護に責任をもつ」ことであり、教員の役割は「学生の学習に責任を持つ」ことであることを明確にしながら、臨床看護師の姿は「看護実践のモデル」になることを強調している。また教員の学生に対する学習環境調整能力が

重要であり、教員の事前学習にも力を入れている。そして実習終了後の反省会においても大学側と臨床側の意思の疎通を図り、次年度の実習に活かせるように留意している。

今回初めての実習において、学生は患者および家族が示してくれた学生への気遣いを肌で感じ、それが手ごたえとなり看護の面白さに繋がっているということ、私たち教員は実感させられた。そこで基礎看護学実習 I の終了後に提出された実習記録から学習の内容を抽出し、基礎看護学実習での学生の学びを明らかにすることを目的とした。

## II. 研究方法

1. 研究方法：質的帰納的研究
2. 研究期間：平成 20 年 3 月～6 月
3. 分析対象：平成 20 年 2 月下旬の 1 週間、基礎看護学実習 1 を履修した本学看護学科 1 年生 74 名の実習終了後の課題レポートである。
4. 分析方法：基礎看護学実習 I の終了時に提出された実習記録から、「学習内容」として意味ある文脈を抽出してコード化し（生データ）、同じ内容を意味するものを集めてサブカテゴリー化した。さらに意味の類似するサブカテゴリーをまとめカテゴリーを生成した。
5. 分析において概念的ラベルの用語の決定には、質的研究者のスーパービジョンを受け検討を加えた。とくに、カテゴリー同士の関係を検討し、中心となるカテゴリーを決め、そこに流れるストーリーラインを考えた。また、共同研究者との意見の統一が図れたことから妥当性が得られたと考える。
6. 倫理的配慮：学生には口頭で、研究目的と結果の

取り扱いおよび、拒否しても成績には関係のないこと、匿名性を保持することを説明し同意を得た。

表1 基礎看護学実習1 目的目標

I. 実習目的 医療施設に入院している対象者の意思や権利を尊重した関わりを通して、対象理解を深める。また、対象者の健康上のニーズにあった日常生活援助の方法を見学や実施を通して学ぶ。	
学習目標	行動目標
1. 看護の視点を持ち対象者に接近することができる。	1) 対象者に挨拶し、自ら近づいていくことができる。 2) 対象者の姓を呼び、丁寧な言葉で話すことができる。 3) 話しやすい環境や雰囲気作りができる。 4) 対象者やその場の状況に応じて、何に配慮して接近すればよいか理解できる。
2. 対象者の意思や権利を尊重した関わりをもつ。	1) 対象者と言語的・非言語的コミュニケーションを用いて関わる。 2) 対象者との関わりの中で、対象者の気持ちや言動をありのままに受け止める。 3) 対象者が持つ考え方、価値観を知る。 4) 対象者の患者としての権利について考えることができる。 5) 対象者との関わりの中で、自分自身の気持ちや態度を振り返る。
3. 関わりを通して対象理解を深め、対象者の看護上のニーズを理解できる。	1) 対象者が療養生活をおくっている目的について理解できる。 2) 療養生活をおくっている対象者の日常生活を把握する。 3) 対象者の社会生活環境と入院生活環境との違いを理解する。 4) 健康障害による対象者の日常生活上の制限について理解する。
4. 対象者の看護上のニーズにあった日常生活援助を実施できる。	1) 対象者が必要としている生活上のニーズを把握することができる。 2) 実施可能な日常生活援助を選択し、援助計画を立案する。 3) 対象者の状態や反応を捉えながら、日常生活援助を実施する。 4) 自分の実施した日常生活援助について振り返る。
5. 医療施設で看護師が実践している看護活動について理解できる。	1) 看護師と共に看護活動に参加し、活動内容を見学する。 2) 対象者の看護上のニーズや健康回復の程度に応じた日常生活援助及び診療の補助の実際について理解する。 3) 役割モデルとしての看護師のコミュニケーションの実際や看護方法について理解する。 4) 看護師が他職種とどのように連携しているかを理解する。

### III. 結果

基礎看護学実習1の学びの記録の学習内容から抽出されたコード数は279であった。類似するコードをまとめ、279の生データ、16のサブカテゴリー、5のカテゴリーに分類した(表2)。以下『』はカテゴリー、「」はサブカテゴリー、< >は内容を表している。

カテゴリー別にコード数を比較してみると『授業知識の確認』は、コード数88(31.6%)、『的確な看護ケア技術』103(37.2%)、『学習意欲の向上』24(8.6%)、『将来への希望』21(7.5%)、『喜び・驚き』43(15.4%)であった。

1. 『授業知識の確認』では、「コミュニケーションの重要性」80(28.7%)と「根拠の大切さ」8(2.9%)の2つのサブカテゴリーで構成された。

『実習初日、受け持ち患者様が決まったが、最初はうまくやっつけられるか、話せるかなどといった不安が多く、何をしたらよいか戸惑った。疾患の名前は調べていたが、実際に一緒に生活することは初めてで、話が聞き取れないこともありどうすればよいか焦り、なにも答えることができないときもあった。だが、患者様と少しでも多くのコミュニケーションをしたい、接

したいと思い、真剣に患者様の行動や発言を見たり聞いたりした。すると、少しずつ、会話が聞きとれたり、患者様の表情で、今の患者様の感情が読み取れるようになっていった。そして、少しずつであるが患者様と私の間に会話が増えていった。さらに、2日目、3日目になっていくと、患者様の方からたくさん過去の体験や、今不安に思っていることなど、さまざまなことを話してくれるようになった。」「コミュニケーションをとることの大切さ、なぜこのケアをしなければいけないのかといった根拠や目的の大切さ、根拠を知ってこそ、ケアが成立し、患者様にとって満足のいくケアができることを教えられた。」

実習中の学生は、実習当初の不安や戸惑いがコミュニケーションによって次第に解き放たれ、患者との距離が近くなっていくことを実感し、コミュニケーションの重要性、難しさ、非言語的コミュニケーションなどの必要性に気づくとともに、根拠に基づいたケアの必要性を身をもって学ぶ事ができていた。

2.『的確な看護のケア技術』では、「個別性に合わせたケア」32 (11.5%)、「看護ケアの重要性」20 (7.2%)、「情報収集の重要性」13 (4.7%)、「マナーの大切さ」5(1.8%)、「無駄のない看護活動」10 (3.6%)、「緻密な連絡調整」16 (5.7%)、安全安楽 7(2.5%)の7つのサブカテゴリで構成された。特に個別性に応じたケアについての学びが多かった。

「その患者さんが繊細な方であることをまず説明され、新参者である私が接触することで刺激を与えることを最小限にすることになった。また、その患者さんをリハビリセンターに車椅子でお送りするとき、私がセオリーに従い、下り坂を後ろ向きに降りようとしたところ、いつもと違う行為により刺激を与えないようにするため、向きを変えることを止められたのである。このことから、患者さんに刺激を与えないようにする事例を学ばせていただいた。」「足浴時に足の垢を取り除くだけでなく、活動されていないし、血行を良くするためにマッサージを取り入れることで気持ちよいと好評を得た。」「一つひとつのケアに対して、患者さんは今何を思っているか考えながら、それを理解するのも難しかったけど、その患者さんの入院前の生活状況や家族構成、既往歴などそういった様々なことを含めて判断していらっしゃることを学んだ。」「他職種の方たちと連携した医療チームを見学したり、話を実際に聞き実感できた。」

学生は個別性をしっかり把握することの必要性、安全安楽を考えた的確な看護ケア技術の必要性を学びと

っていた。

3.『驚き・喜び』は、「ケア技術を体験した喜び」17(6.1%)、「学生自身が自分の傾向についての気づき」10(3.6%)、「患者の反応に対する感動」11(3.9%)、「ナースの看護スキルの高さへの驚き」5 (1.8%) で構成されていた。

「コミュニケーションが取れていないため自分勝手に患者さんの気持ちを決め付け、患者さんの本当の気持ちを考えることをしなかった。そして、今まで学校で習ったことを必死になって行おうとしてしまった。その結果、本来はケアすべき患者さんが本当に必要としているものは、今自分がしようと思っていたものとは別のことであることに気づかされた。」

学生は、患者さんの求めているものと自分が考えていることの違いに気づき、驚いていることが分かる。

「患者様の笑顔やありがとうという感謝の気持ちが、お金に換えないほどの価値があると改めて感じた。」「実習を通してまだ私に足りないものをたくさん見つけることができよかったですと思うし、やはり一番うれしかったことは受け持ち患者が、自分たちで計画した実践を受け入れてくれてとても温かい言葉をいただいたことが一番印象が大きかったし、とてもやりがいを感じた。」

「環境整備終了後に助かったよと看護師に言われ、こんな私にも役に立つことがあるかと思うと胸がいっぱいになった。何気ない一言に励まされた。」「患者様から信頼や頑張って生きていく姿などを教えていただいた。途切れ途切れの言葉で一生懸命ゆっくりとお話され、その姿に感動した。」「今まで人見知りで積極的に行動を行うことが苦手だったけど、看護活動に参加することができ、人との関わりの温かさを感じ、人との関わりを持てるようになりたいと思った。」

学生は自分の傾向を知り、前向きに変えていく意欲や、患者からの感謝の言葉、励ましの言葉、役に立てる実感など患者の反応に対する感動と学びと発見の連続の毎日であり、患者や看護師からの温かい言葉などから、信頼関係が生まれている。

4.『学習意欲の向上』は、「学習意欲の向上」12 (4.3%)と「今後の課題の明確化」12 (4.3%)より成立していた。

「わからないことに疑問を持ち調べることで、こんなにも視野が広がることを実感し、看護の仕事に興味をもてた。」「患者さんの求めるニーズは何かということを理解できるように、またそれを知り、ケアできるように、これから学習していく中で成長していきたい。」

学生は、実習中の疑問を調べることで視野が広がり、理解することが患者のケアにつながるというクリティカルシンキングが、自然に体得できる環境のなかで、学習意欲の向上に繋がる内容であふれていた。

5.『将来への希望』に関するコードは 21 (7.5%) であった。

「今回の実習で学んだことをこれからの勉強に生かし、最後に患者さんに言われた人の思いもわかる素敵な看護師になれるようにこれからもがんばりたい。」「これまで学んだことを筆頭に学習で学んだことを忘れないようにし、今後は勉強するときに実習で学んだことを照らし合わせるなどしてすぐれた看護師を目指す。」

学生は、患者から慕われ誰からも好かれる信頼される看護師になりたいと自分の目指す看護師像を多く記述していた。

#### IV. 考察

図 1 は、基礎看護学実習 1 で抽出された意味内容から、学生の学習のプロセスに合わせ効果的に並べ図式化した概念図である。学生の学びは、あふれるような驚きと喜びの感情の連続の中で、授業知識の確認と的確な看護ケア技術の重要性であった。そして、手ごたえを感じることで、学習意欲の向上につながり、将来への夢につながっていく様相を示した。

学生は基礎看護学実習において、病棟に出るや否や『驚き・喜び』の情動的な反応を感じると同時に、受け持ち患者を持つことによる不安と戸惑いと緊張のなかで、コミュニケーションを駆使し、一生懸命患者に接近することを試みている。その中でケア技術を体験した喜びや患者の反応に感動し、看護師の看護スキルの高さへの驚き、コミュニケーションの大切さ、重要性、方法、困難などを学んでいた。特にタッチング、アイコンタクト、五感で感じることの重要性を学び、同時にナースを通してコミュニケーションの実際を見聞きする中で、声の大きさ、患者さんの表情・反応の大切さ、視線を合わせること、聞き役に徹すること、話しやすい雰囲気をつくることの必要性などを気づき学んでいた。

学生は、すべてのケアにはそれぞれ目的があり、根拠を知ることが大切であることを看護師の在り様から学び、『授業知識の確認』と同時に知識の習得が必要なことを痛感している。そして、看護師による患者の看護ケア技術の素晴らしさを目の当たりにして、看護ケア技術は、個別性に合わせたケアの必要性、入院前の患者さんの生活に合わせたケア、症状に合わせたケア、日常性に合わせたケア、個人に合ったケアを行うこと

の大切さなど、患者さんの人権を考えた倫理観あふれる気持ちが文脈から理解できた。アートとしての技術は、的確な技術・スピード・ケア技術の工夫の必要性和ケア効果の素晴らしさを実感すると同時に、その反面、反応を見ながらのケアの難しさを述べ『的確な看護ケア技術の重要性』を述べていた。さらに、患者さんの生活状況や、その他もろもろのことを含めた判断と予測性の必要性を学んでいた。

情報収集では、患者を知らずにケアすることの恐ろしさ、その人に合ったケアの方法を情報より読み取っていくことの重要性について学んでいた。また、すべてのケアにおける安全・安楽の重要性に気づいていた。そして、看護活動を見学させていただく中で、看護師同志あるいは他職種との連携がなされていることにも気づいていた。これらの看護実践を通して、看護ケアには目的と根拠が大切であること、つまりなぜこの作業やケアをしなければいけないのかといった根拠・目的の大切さ、それがケアにつながっていくことのプロセスが理解できたことなどが『学習意欲の向上』につながり、今後の課題の明確化につながっていった。これらの看護実践をする中で、患者さんとの信頼関係ができ相互成長することにつながっていった。

また、看護実践におけるマナーの必要性に気づくと同時に、患者さんとの信頼関係を得るためには、患者さんをありのまま受容すること、他の人を認めることが重要であると認識していた。そして、患者さんの笑顔やありがとうという感謝の気持ちが、お金に換ええないほどの価値があると信頼関係の重要性を述べており、患者さんから多くのことを教わっていた。それは、指導して下さった看護師への感謝の気持ち、受け持ち患者さんが私を成長させてくれたなどの気持ちにつながっていった。そして、信頼感の形成がやりがい感を獲得できたことにつながり、自己成長が学習の意欲

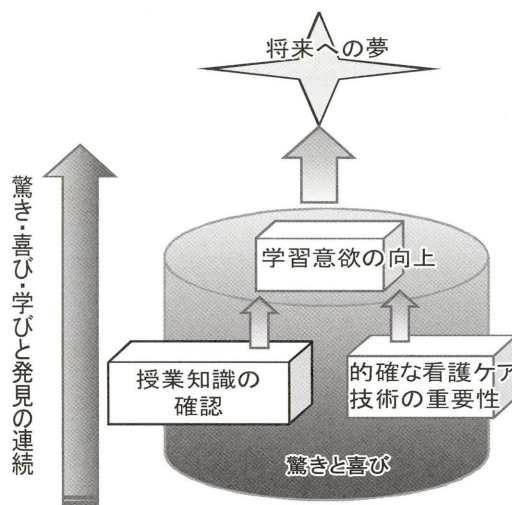


図 1 基礎看護学実習 1 の学びの概念図

向上につながっている。また、自分に足りないものをいっぱい見つけることができたことと自己洞察でき、学生自身の傾向をも知ることができている。なぜ学習意欲が向上したのかについては、疑問を調べることで、視野の広がりを実感し、目的根拠を知りケアにつながっていく過程が理解できた。患者さんからの感謝の言葉、看護師さんの親切で熱心な指導、この実習で見つけた新たな目標や課題、患者さんが求めるニーズは何か理解できるようになった。患者さんの求めるニーズを知りケアができるようになりたいなどが挙げられた。『将来への希望』であり、職業観の形成につながった。

学生の今後の課題として、“基礎的知識技術に基づく応用ができるように学習したい”、“学習面の基礎をしっかりと学習したい”、“看護技術を身につけるため日々の訓練が必要だ”、“疑問に思ったことをとことん調べていく”、“学内演習の方法を工夫する”など今後の学習への意欲と創意・工夫へ繋がっていく様相がみられた。

学生は、1週間の実習が『驚き・喜び・気づき・発見の連続』という学生の情動的な感情を抱きつつ、臨床という未知の世界の中で、信頼関係が構築されていくことで、不安・戸惑い・緊張が解消されていったと考える。学生の実習からの学びの構造について落合<sup>5)</sup>は、学びの中には職業人としてのあり方に関わる学びと、自分のあり方についての学びの2種類あると予想されると述べて、『自己のあり方』には、「人間関係の深まりの喜び」「学びと発見の連続」と述べているが、本研究と同様の結果であった。

また、学生は臨床において常に患者の心と人権尊重を根底に置きつつ、個性や生活に合わせたケア、症状に合わせたケア、日常性に合わせたケアを行うことの大切さなど、授業知識の確認と的確な看護ケア技術の重要性を再認識していることが考えられる。そして、安全・安楽の重要性、他職種との連携など、職業人としてのあり方、責任の重要性を学んでいることが理解できる。落合は、職業人としてのあり方に関わる学びとして「生活・価値観から見ることの大切さ」「患者の心と人権の尊重」「現場に立つことの意味と責任の自覚」を挙げているが、本研究での結果と同じであった。

また、学生は目的・根拠を知りケアをしていく過程で学習意欲の向上につながっていると考えられる。また、臨床実習を体験することで、看護師に必要なクリティカルシンキングが無意識のうちに体得できてきたのではないかと考えられる。奥津ら<sup>7)</sup>は、近年、臨床実習のストレスに耐えられず、欠席や、意欲低下により満足感を十分得られないまま実習を終えてしまう学生が増えていると述べているが、今回の実習では、一

人の欠席もなく多くの学びがあったのは、患者からの感謝の言葉、看護師の親切で熱心な指導、実習で見つけた新たな目標や課題などが、学生の学習への主体性を育成しているからではないかと考える。

## V. まとめ

本大学での基礎看護学実習1は、学生が対象者を尊重・擁護するという態度を基盤に、対象者に接近でき、よりよい人間関係を築くこと、対象者の気持ちに沿いながら的確なニーズを把握しケアに結びつけることができるという目的を実現できるように、教員は多くの期待を持って実習指導に臨んだ。学生にとって初めての病院実習であり、病院環境を知り、制約された環境のなかで生活を余儀なくされている対象と出会い、毎日が緊張や戸惑いと未知の連続である。教員が、学生の戸惑いや悩みに気づくよう、気持ちに沿いながらも、厳しさを教えていったことで、多くの学びにつながったのではないと考える。

## 謝辞

本研究にあたり、ご協力くださった学生の皆様に感謝します。

## 引用文献

- 1) 舟島なをみ：看護教育学研究の成果に看る看護学実習の現状と課題, *Quality Nursing*, Vol7.No.3, 2001, 6-14.
- 2) 佐藤美紀, 大島弓子, 小松万喜子他：患者との人間関係形成の初期段階における学生の主観的評価とその理由, *愛知県立看護大学紀要*, Vol.12,2006.17-22.
- 3) 高橋永子, 平瀬節子, 野村晴香ほか：基礎看護学実習1で看護学生が学んだ対象理解の視点, *看護・保健科学研究誌*, Vol8,No1,2008.
- 4) 皮野さよみ：臨地実習終了間近の看護学生の「体験」による学びの様相, *九州国立看護教育紀要*, Vol.6.No.1,23-30,2003.
- 5) 落合幸子, マイマイティ・パリダ, 紙屋克子ほか：医療系大学生の実習からの学び尺度作成への試み, *茨城県立医療大学紀要* Vol.11,79-88.
- 6) 浅美智代：教員と臨地指導者との連携—病院実習に焦点をあてて, *Quality Nursing*, Vol7.No.3,2001, 31-36.
- 7) 奥津文子, 片山由美, 大矢千鶴ほか：効果的な臨地実習指導方法の検討—学生の自己効力感の変化と実習満足度からの一考察, *京都大学医療技術短期大学部紀要*, 2002,22, 33-41

表2 「基礎看護学実習Ⅰ」における学習内容

カテゴリー	サブカテゴリー	内容	コード数
授業知識の 確認 88(31.6%)	コミュニケーションの重要性 コード数 80(28.7%)	・言語コミュニケーション	41
		コミュニケーションの重要性・大切さ	2
		コミュニケーションの方法	5
		コミュニケーションの困難さ・難しさ	1
		プロのナースのコミュニケーションのあり方	7
		・非言動的コミュニケーション	1
		アイコンタクト	4
		タッチング	1
		非言語的コミュニケーションの重要性	3
		五感で感じる	1
	根拠の大切さ コード数 8(2.9%)	・ナースを通して学んだコミュニケーションの実際	3
		視線を合わせる, 声の高さ, 患者の表情・反応	1
		患者さんの口元を見て解釈する	1
		聞き役に徹する	2
		マイナスのコミュニケーション	6
		話しやすい雰囲気をつくる	5
		ケア自体もコミュニケーションの手段	3
的確な看護 ケア技術 103(37.2%)	個別性に合わせたケア コード数 32(11.5%)	・ケア技術の工夫	4
		・個別性に合わせたケア	21
		・入院前の患者の生活に合わせたケア	1
		・症状に合わせたケア	3
		・患者さんの日常生活に合わせたケア	2
		・個人に合ったケアを行うことの大切さ	1
	看護ケアの重要性 コード数 20(7.2%)	・ケアの困難性とケアの効果	10
		・反応を見ながらのケアの難しさ	3
		・看護技術の重要性と責任の重大さ	2
		看護技術の基礎で習ったことの重要性	1
		安全安楽を考えたケア	2
	安全安楽 コード数 7(2.5%)	観察の重要性	2
		・点滴静脈注射の際の薬液混注の際の多くの確認事項	2
		患者さんの負担となるようなことはしない	2
	情報収集 コード数 13(4.7%)	すべてに患者さんの安全面が考えられていること	3
		・その患者さんを知らずにケアすることの恐ろしさを感じ	1
		・その人に合ったケアの仕方を情報より読み取っていくことの重要性	2
・看護師の患者に対する情報の多さ		4	
マナーの大切さ コード数 5(1.8%)	・さりげない会話の中から情報収集をしている	4	
	・その会話から患者さんが考えていること, 求めていることを分析し解釈することの必要性を知った	2	
	・看護師は寝たつきりで動けない患者さんにも, 平等に声をかけられていた	2	
無駄のない看護活動 コード数 10(3.6%)	言葉つかいに注意する, 注意されたら素直に受け止める	1	
	看護師は自信に充ち溢れていていやな顔をせず楽しく仕事をされていた	2	
	・看護活動から看護師の看護の実態を実感	3	
	・看護師1人に何人も患者を受け持つことの大変さ	1	
	・看護ケアの理解	2	
緻密な連携と調整 コード数 16(5.7%)	・看護業務の忙しさ	2	
	・無駄のない看護活動	2	
	・看護師同士の報告連絡の緻密さ, 看護業務の効率化が図られている	1	
	・意見を出し合い, よりよい患者の生活を目指している	1	
	・看護師同士の協力	6	
	・他の医療従事者との連絡調整・パイプ役として重要	1	
	・他職種との意見交換	2	
	・他職種間のお互いを尊重する態度	1	

カテゴリー	サブカテゴリー	内容	コード数
学習意欲の向上 24(8.6%)	学習意欲の向上 コード数 12(4.3%)	・疑問を調べることで視野の広がりを実感	1
		・調べることで目的根拠を知り、ケアにつながっていく過程を理解できた	1
		・患者さんからの感謝の言葉	4
		・看護師さんの親切で熱心な指導	2
		・この実習で見つけた新たな目標や課題	1
		・患者さんの求めるニーズは何か理解できるようになったことと、ニーズを知りケアできるようになりたい	2
		・患者さんへの負担をかけないケアを目指す	1
	今後の課題の明確化 コード数 12(4.3%)	・基礎的知識技術に基づく応用ができるように学習したい	4
		・学習面の基礎もしっかり学習すること	2
		・看護技術を身につけるため日々の訓練が必要	3
		・疑問に思ったことを大切にするとことん調べていくことが課題	1
		・似たような病気はあるが同じようなケアはないはず	1
		・学内練習の方法を工夫する	1
		・	1
将来への希望 21(7.5%)	職業観の形成 コード数 21(7.5%)	・誰からも好かれる看護師	2
		・患者さんから信頼され慕われる看護師	10
		・患者さんの気持ちを一番に考えた対応ができる看護師	1
		・すぐれた看護師	1
		・精神面でもっと成長して患者さんに不安を与えないような看護師	1
		・もっと知識・技術を身に付けすぐれた看護師	1
		・看護師という目標に向かって頑張りたい	1
		・今まで辛いことや悲しいことがあったが、看護師になりたいと強く思った	1
		・人の思いがわかる素敵な看護師になりたい	1
		・患者のニーズを考え臨機応変に対応できる看護師になりたい	1
		・安心安楽な療養生活をしていただけるようなコミュニケーションのとれる看護師になりたい	1
喜び、驚き 43(15.4%)	ケア技術を体験した喜び コード数 17(6.1%)	・患者さんからの感謝・喜びの言葉	6
		・患者さんの役に立てる自分を実感しうれしい	6
		・患者さんの笑顔やありがとうという感謝の気持ちがお金に換えないほど価値あると改めて感じた	1
		・看護師さんより「助かったよ」と言われこんな私でも役に立てることがわかりうれしかった	1
		・患者さんからの励ましの言葉	1
		・実習を通して自分に足りないものをいっぱい見つけることができてよかったことと、自分たちの計画を患者さんから受け入れられ、暖かい言葉をいただいた	1
	学生自身が自分の傾向についての気づき コード数 10(3.6%)	・実際の患者さんと触れ合うことで、いろいろな感情が現れ、ケアをしてあげたいと思い、患者さんとかかわることが楽しくなり積極的になれた	1
		・患者さんから逃げていた部分があった	2
		・実習の目的と学ぼうという気持ちの必要性	1
		・人見知りな性格	1
	患者の反応に対する感動 コード数 11(3.9%)	・学生と看護師の患者への接し方を考えた	3
		・コミュニケーションはできるが応用ができない	3
		・患者さんのありのままを受容すること	1
		・他の人を認めること	3
	看護スキルの高さへの驚き コード数 5(1.8%)	・自分が深く関わることで患者さんが心を開いてくれた	1
		・患者さんの笑顔やありがとうという感謝の気持ちがお金に換えないほどの価値あるもの	4
・指導して下さった看護師さんへの感謝と、受け持ち患者さんが私を成長させてくれた		1	
・受け持ち患者さんから教わるが多くあった		1	
・看護師の予測と判断		1	
・患者の生活状況その他を含めた判断		1	
・ナースは先のことを予測して考えながら行動している	1		
・ケア効果の素晴らしさ	1		
・反応を見ながらのケアの難しさ	1		

